

## 石西礁湖及び周辺海域のマリンレジャーにおける 持続可能な海域・海岸利用ガイドライン(案)

### ● マリンレジャーで海域・海岸を利用する皆様へ

#### <1.安全面> 良い思い出になるように安全に楽しみましょう

1. 自身の体調をしっかり整えて、無理せず万全な体調で海に入りましょう。過労、睡眠不足、飲酒、薬物服用の状態を利用せずまた、前夜の深酒は控え、十分な睡眠を取ることが大切です。
2. 海の危険生物がない事を確認し、応急セットを備えましょう。
3. 万が一に備え、緊急時の連絡体制を確保し、救助機関等の連絡先を把握しておきましょう。(警察 110、消防・救急 119、海保 118)
4. 海で遊泳をする際は、常に複数人で行動してお互いに安全を確認しましょう。必ずライフジャケットまたはウェットスーツを着用し、浮力を確保しましょう。また、自身が利用していない船の周りで泳がないようにしましょう。急に船が動き出すと大変危険です。
5. スノーケリングはスポーツです。正しい器材の使い方を習得し、基本の4点セット(水中マスク、スノーケル、フィン、ライフジャケットまたはウェットスーツ)やマリンスーツを事前に点検したうえで、自身の技量を把握するためにも浅瀬で練習してから泳ぎ始めましょう。
6. SUP は、風と波の影響を受けやすいスポーツです。正しいパドルの使い方と自身の技量を把握したうえで、基本の4点セット(ボード・パドル・リーシュコード・ライフジャケット)と必ず防水パック入り携帯電話、季節や水温に合った適切な装備を事前に点検、装着し安全に実施しましょう。
7. カヤックはスポーツです。正しいパドルの使い方と自身の技量を把握したうえで、基本の4点セット(ボード・パドル・トーイングロープ・ライフジャケット)と必ず防水パック入り携帯電話、季節や水温に合った適切な装備を事前に点検、装着し安全に実施しましょう。
8. スキンダイビング(素潜り)を行う際は自分の位置がわかるように必ずフロートを装備し水面に浮かべ、船に近づかないようにしましょう。ウエイトベルトを使用する際は、必ずクイックリリースができるものを使用しましょう。

## <2. 環境配慮> 海の中に「おじゃまします」の気持ちで自然を大切にしましょう

1. サンゴや海の生物を保護するためにマナーを守りましょう。
  - ・サンゴの上や岩(サンゴ礁)の上に立たない、歩かない:足元に小さなサンゴの赤ちゃんがいるかもしれません。
  - ・フィンやブーツでサンゴを蹴らない:折れたサンゴはそのまま死んでしまうことがあります。
  - ・サンゴや海の生物に触れない:危険生物や繊細な生物もいます。
  - ・餌付けをしない:海が汚れ生物の生態系が壊れてしまいます。
  - ・生物を追いかけない:海の中は彼らのお家なので優しく見守りましょう。
  - ・動植物を採ったり、傷つけないようにしましょう。
2. 帽子やラッシュガードを着用して日焼け止めの使用量を減らしましょう。また「サンゴに優しい日焼け止め」等を使用することをおすすめします。
3. ゴミは必ず持ち帰り、適切に分別して処理しましょう。
4. 海岸での焚き火は禁止されています。
5. 海岸では他の利用者の迷惑にならないよう騒音など配慮しましょう。

## <3. 地域配慮> 地域の暮らしへの配慮をお願いします

1. 御嶽など立ち入り禁止の神聖な場所には入らないようにしましょう。
2. 市街地や集落内では半裸や水着だけで行動しないようにしましょう。
3. 迷惑駐車はやめましょう。
4. ドローンによる空撮は事前に各種関係機関へ届出を出しましょう。

## <安全関連サイト>

- ① (安全にマリレジャーを楽しむために | 石垣市  
[https://www.city.ishigaki.okinawa.jp/soshiki/kanko\\_bunka/tourist\\_information/marineleisure\\_safety.html](https://www.city.ishigaki.okinawa.jp/soshiki/kanko_bunka/tourist_information/marineleisure_safety.html))
- ② (気を付けよう！海の危険生物 | 沖縄県  
[https://www.pref.okinawa.jp/res/projects/default\\_project/page/001/005/069/leaflet\\_japanese.pdf](https://www.pref.okinawa.jp/res/projects/default_project/page/001/005/069/leaflet_japanese.pdf))
- ③ 着ようよ！ライフジャケット | 沖縄マリンセーフティ  
<https://www.portal.marinesafety.okinawa/wp-content/uploads/2025/07/WearLifeJacket.pdf>
- ④ 沖縄の海を安全に楽しもう！ | 沖縄マリンセーフティ <https://www.portal.marinesafety.okinawa/>
- ⑤ 海水浴 | 石垣市観光交流協会 <https://yaeyama.or.jp/play/swimming/>
- ⑥ 海の安全情報(沿岸域情報提供システム | 第11管区石垣海上保安部  
<https://www6.kaiho.mlit.go.jp/11kanku/ishigaki/kisyou.html>
- ⑦ スノーケリング ウォーターセーフティガイド | 海上保安庁  
<http://www6.kaiho.mlit.go.jp/watersafety/snorkeling/>
- ⑧ SUPの安全情報 | ウォーターセーフティガイド | 海上保安庁  
<https://www6.kaiho.mlit.go.jp/watersafety/sup/index.html>
- ⑨ カヌーの安全情報 | ウォーターセーフティガイド | 海上保安庁  
<https://www6.kaiho.mlit.go.jp/watersafety/canoe/>)

<p>①</p>  <p>安全にマリレジャーを楽しむために～水難事故防止にご理解とご協力をお願いします/石垣市 www.city.ishigaki.okinawa.jp</p>	<p>②</p>  <p><a href="https://www.pref.okinawa.jp/res/projects/default_project/page/001/005/069/leaflet_japanese.pdf">https://www.pref.okinawa.jp/res/projects/default_project/page/001/005/069/leaflet_japanese.pdf</a> www.pref.okinawa.jp</p>	<p>③</p>  <p><a href="https://www.portal.marinesafety.okinawa/wp-content/uploads/2025/07/WearLifeJacket.pdf">https://www.portal.marinesafety.okinawa/wp-content/uploads/2025/07/WearLifeJacket.pdf</a> www.portal.marinesafety.okinawa</p>
<p>④</p>  <p>沖縄の海を安全に楽しもう！ www.portal.marinesafety.okinawa</p>	<p>⑤</p>  <p>海水浴   石垣市観光交流協会 yaeyama.or.jp</p>	<p>⑥</p>  <p>海の安全情報(沿岸域情報提供システム) www6.kaiho.mlit.go.jp</p>
<p>⑦</p>  <p>スノーケリング   ウォーターセーフティガイド www6.kaiho.mlit.go.jp</p>	<p>⑧</p>  <p>SUP(スタンドアップパドルボート)の安全情報   ウォーターセーフティガイド www6.kaiho.mlit.go.jp</p>	<p>⑨</p>  <p>カヌーの安全情報   ウォーターセーフティガイド www6.kaiho.mlit.go.jp</p>

## A. マリンレジャー事業者のツアーに参加する場合

1. 事前に病歴の確認や当日の健康チェックを受けたうえで、ツアー中に体調の変化や不安を感じた場合は、無理せず事業者に相談しましょう。
2. 海の中には危険な生物が住んでいます。事業者の説明をよく聞き、むやみに水中の生物に触らないようにしましょう。万が一ケガをした場合は、直ちにガイドに知らせて下さい。
3. ツアー中はガイドから離れず、複数人で行動しましょう。

## B. 個人で海域・海岸を利用する場合

### マリンレジャーをされる場合はツアーへの参加を強く推奨します

八重山諸島の海岸のほとんどは、監視員やライフガードのいない手つかずの自然が残る場所です。そのため、地形や潮の満ち引きにより潮の流れが急に強くなったり、複雑になることがあり、思わぬ危険につながる場合があります。また、場所によっては携帯電話の電波が届きにくいところや、救急隊が到着するまで時間がかかる海岸も多く、万が一の際にすぐに助けを呼べない場合があります。こうした理由から、八重山では毎年海での事故が発生しています。

1. 監視員やライフガードのいる海水浴場を利用しましょう。
2. 事前に天気や風速、潮の満ち引きなどの気象情報を調べましょう。
3. 天候の変化に注意して悪天候や波が高い場合は海に入らないようにしましょう。

## ●マリンレジャー事業者(ダイビング、スノーケリング、水上オートバイ、SUP、カヤック、サバニ等)の皆様へ

マリンレジャー事業者は、以下のガイドラインを遵守するとともに、参加者にガイドラインの内容を周知することが求められます。また、他の一般の海岸・海域利用観光客にも、何らかの機会に本ガイドラインの取り組みを紹介し、個人で海岸を利用する際の安全面や自然環境・地域への配慮を促すことも重要です。さらには、プログラムに自然環境や歴史文化を体験し学ぶエコツアーの要素を取り入れることで、自然環境を守りながら海の魅力をより深く味わえる、価値ある持続可能な観光をめざしましょう。

### (1)沖縄県条例と法律に基づく安全な事業運営

#### 1. 条例と法律の遵守

海域で事業を行う事業者は、「沖縄県水難事故の防止及び遊泳者等の安全確保等に関する条例」に従い事業を行うこと。また、船舶を使用する事業者は、「小型船舶操縦者法」およびその他関連法令に基づき、安全に事業を運営すること。

#### 2. 安全管理の徹底

アクティビティ中は、必ずガイドが監視体制を確立し、安全管理を徹底すること。常にガイドは気象・海象に注意を払い、参加者の体調に気を配ること。

- ・潜水業者は、事業所ごとに自ら潜水をし、並びに潜水者を案内し指導するガイドダイバーを配置すること。ダイビング器材を使用させる場合は、事前に器材を点検し、潜水中は必ずバディシステムを遵守させること。※
- ・スノーケリング業者は、事業所ごとに自ら同伴し、スノーケリング者を案内し指導するスノーケリングガイドを配置すること。スノーケリング器材を使用させる場合は、事前に器材を点検し、スノーケリング中は必ずバディシステムを遵守させること。※
- ・プレジャーボート提供業者(SUPを含む)は、水難救助を行うための水難救助員を配置すること。また、プレジャーボート提供業者および潜水業者は、事業所へ緊急連絡が可能な通信手段を整備するように努めること。※

※「沖縄県水難事故の防止及び遊泳者等の安全確保等に関する条例」抜粋

#### 3.安全器材の装備

- ・ダイビング:ガイドは、シグナルフロートおよび笛などの緊急安全器材を必ず装着すること。
- ・スノーケリング:ガイドも含め、必ずライフジャケットまたはウェットスーツを着用し、さらにガイドは浮力体を必ず使用すること。

- ・SUP:ガイドも含め、必ずライフジャケットなどの救命胴衣または浮力補助具を着用し、さらにリーシュコードを必ず各艇に装着すること。また、万が一に備えて事業所への連絡体制が可能な通信手段の確保に努めること。
- ・カヤック:ガイドも含め、必ずライフジャケットなどの救命胴衣を着用し、さらにガイドは予備のパドルとトーイングロープを必ず装備すること。

#### 4.気象状況の確認

当日の気象・海象や潮汐情報を事前に確認し、利用者へ情報提供すること。天候の変化を常にチェックし、沖縄県公安委員会事業者登録時に提出した止基準と参加者の技量を考慮して、コンディションが悪い場合は活動を中止すること。

#### 5.体調管理と危険意識

アクティビティ参加前に、ガイドを含めすべての参加者の体調や既往歴を確認し、過労・睡眠不足・飲酒・薬物服用などの状態では参加させないこと。危険回避のための詳細なブリーフィングを行い、参加者の危険意識を高めること。

#### 6.アクティビティ中の安全行動

船が近づいた際は、参加者に回避行動をとるよう明確に指示をすること。動いている船の側での素潜りやダイビング中の浮上など、危険な行為を行わないこと。

#### 7.応急処置

ガイドは応急処置法を習得し、必要な救急用品を現場に備えること。年に1回以上、沖縄県公安委員会や消防、有資格事業者・団体が実施する水難救助およびCPR訓練に参加すること。

#### 8.プレジャーボート事業者におけるダイバー・遊泳者への安全配慮

ポイントへの出入りは必ず徐行し、引き波を最小限に抑えること。潜水時にはA旗を掲揚すること。ダイバーやスノーケラー付近を航行する際は、必ず徐行・微速航行を徹底し十分な距離を確保すること。

## (2)自然環境に配慮した事業運営

### 1. サンゴや海の生物に関するブリーフィング

事前に参加者へ、サンゴに関する基礎知識および海の生物に関するブリーフィングを実施すること。海の生物への負荷を少なくするよう配慮し、海の危険生物への注意喚起、動植物の採取禁止、むやみに追いかけないよう観察マナーを周知すること。

### 2. サンゴや海の生物に対するのマナーの徹底

ガイド及び参加者は、サンゴにむやみに触らないよう十分に配慮し、サンゴを掴む、上に立つ、着底する、踏むなどの行為を行わないよう注意すること。また、必要に応じて参加者へ注意喚起を行うこと。海の生物については、撮影を目的として追いかける、餌を与えるなどの行為を行わず、必要に応じて自然環境に配慮した指示を行うこと。

### 3. 浅いリーフ域での低水位時の利用注意

潮位が低い場合は、浅いリーフ内への立ち入りを控え、必要に応じて迂回するなど工夫を行い、船底接触、ならびに、ダイバー・スノーケラーによるフィンキックや踏み荒らしによるサンゴへのダメージ防止に努めること。

### 4. 日焼け対策におけるラッシュガードの推奨

参加者にラッシュガード等を着用して肌の露出を避けるよう促し、「サンゴに優しい日焼け止め」の存在を伝える。

### 5. 餌付け・投棄の禁止

参加者に、魚への餌付けや、昼食の残り物などを海中へ投棄する行為を行わないよう周知する。

### 6. ゴミの適切な持ち帰り

アクティビティ中に発生したゴミは、海中・ビーチ・船上問わず、全て持ち帰り適切に処理し、参加者にも協力を求めること。

### 7. 環境に配慮したアンカーリング(船舶、(水上オートバイを含む)、SUP、カヤック、サバ二等)

アンカーリングやロープで直接岩等に固定する場合は、サンゴや海草藻場など貴重な海洋生態系を避けた岩礁で行うこと。可能な限りアンカーマンが入水して自然環境を確認しながら、アンカーリングを行うこと。

### 8. 海鳥の営巣地への立ち入り禁止

アジサン類などの海鳥が営巣している場所には近づかないこと。

### 9. 安全管理及び環境配慮が可能な案内参加者数(目安)

アクティビティは、安全かつ環境への配慮が可能な案内客数で実施し、各指導団体の定め及び、沖縄県公安委員会規則に準じて行うこと。また、ガイドの知識および能力の向上に努めること。

- ・ダイビング:体験ダイビングはガイド1名につきおおむね2名、ファンダイビング初心者(経験本数およそ20本以下)はおおむね4名、ファンダイビング中級者(経験本数およそ60本以下)および上級者はおおむね6名とする。
- ・スノーケリング:スキンドайビング(素潜り)を除くスノーケリングはガイド1名につき最大8名とする。
- ・SUP:海域の風速5m以下の場合はガイド1名につき最大5名とする。海域の風速5m以上の場合はガイド1名につき最大2名とする。ビッグSUPや移動を伴わないSUPヨガは対象外とする。
- ・カヤック:海域の場合はガイド1名につき最大5艇、人数は最大10名とする。

※すべての業種において案内参加者数はあくまでも目安であり、安全を考慮し海洋状況・ガイドの経験・参加者の経験や年齢、技量をふまえ、必要に応じてアシスタントを配置すること。

※西表島周辺海域での事業運営は、「西表島エコツーリズム推進全体構想」に準じて行うこと。

10. プレジャーボート事業者におけるアンカー投下時の安全確認  
アンカーを投下する際は、必ず周囲および水中の状況を確認し、安全を確保すること。可能な限り、アンカーマンが入水して作業を行うこと。

11. ローカルルールの遵守  
各海域には、そのエリアやポイント独自のルールが存在する。事業者はそれを把握・理解し、ルールを守った上で適切に利用すること。

### (3) 地域に配慮した事業運営

#### 1. 漁業活動への配慮

漁船や監視作業船、漁業活動中の漁場付近を航行する際は、迂回と徐行を徹底すること。また漁業活動の妨げとなる遊泳やツアー実施を避けること。

#### 2. 銚・水中銃使用禁止

潜水器具を使用しての銚や水中銃の使用は、許可を得た場合を除き禁止とする。

#### 3. 違法採取禁止

海域によっては、自然公園法や沖縄県漁業調整規則に基づき、生き物の採取が規制されていることに留意する。

#### 4. 駐車場利用と近隣への配慮

送迎車やお客様のレンタカーを駐車する際は、近隣の迷惑にならないよう配慮すること。事業者間でも譲り合いながら適切に利用すること。

#### 5. ドローン撮影における許可申請

ドローンによる空中からの撮影を行う場合は、行政機関や関連機関へ必要な手続き・申請を行うこと。

#### <ローカルルール関連サイト>

##### ① 川平石崎マンタポイントのルール | 一般社団法人・八重山ダイビング協会

<https://yda-diving.com/manta/>

##### ② 海で遊ぶときのルール | 白保魚湧く海保全協議会

<https://sa-bu.natsupana.com/info/rule-umi/>

①



川平石崎マンタポイントのルール—一般社団法人・八重山ダイビング協会  
yda-diving.com

②



海で遊ぶときのルール—白保魚湧く海保全協議会  
sa-bu.natsupana.com